

2015 年度 大阪における 「ユネスコ協会 ESD パスポート」 の取り組み

～ 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟・

大阪府ユネスコ連絡協議会・ユネスコスクールの連携事例～



ESD

Education for
Sustainable
Development

2015 年度 大阪における「ユネスコ協会 ESD パスポート」の取り組み

～ 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟・

大阪府ユネスコ連絡協議会・ユネスコスクールの連携事例～

目次

	ページ
「ユネスコ協会 ESD パスポート」活動に取り組む大阪の中・高校生たち	1
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 理事 米田 伸次	
2015 年度「ユネスコ協会 ESD パスポート」実施要項	4
ユネスコスクール各校のボランティア活動報告	
教員氏名	
大阪府立今宮高等学校	桜本 哲也 6
追手門学院中高等学校	田橋 知直 8
大阪府立春日丘高等学校	大岡 成樹 10
コリア国際学園中等部・高等部	竹内 宗栄 12
大阪府立佐野高等学校	安里 佳世子 14
大阪府立泉北高等学校	藤原 和美 16
大阪市立鶴見橋中学校	川島 彰允 18
帝塚山学院泉ヶ丘高等学校	岡 憲司 20
羽衣学園高等学校	米田 謙三 22
大阪府立北摂つばさ高等学校	末岡 聖也 24
大阪府立松原高等学校	佐藤 智美 26
特集：大阪の学校現場から全国への発信！ ESD の狙い・方法・展望	
東日本大震災復興支援 中高生 現地ボランティア	藤井 伸二 28
「第 1 回アジア・ユース・カンファレンス」に参加して	巖 敞俊 30
ボランティアと ICT で創り出す Global な Network	米田 謙三 32
「ユネスコ協会 ESD パスポート」体験発表会	
「ユネスコ協会 ESD パスポート」体験発表会 開催要項	大阪府ユネスコ連絡協議会 33
	会長 中馬 弘毅
「ユネスコ協会 ESD パスポート」体験発表会 運営報告	大岡 成樹 34
【資料】「ユネスコ協会 ESD パスポート」体験発表会 実施要項	大阪府ユネスコ連絡協議会 36
	事務局 中橋 正文
表紙の写真 2 枚は 2015 年 12 月 26 日に実施した 「ユネスコ協会 ESD パスポート」体験発表会の様子です。	

「ユネスコ協会 ESD パスポート」活動

に取り組む大阪の中・高校生たち

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事
大阪府ユネスコ連絡協議会理事

米 田 伸 次

ESD の効果的な実践手法としての「ESD パスポート」

2013 年から開始され、日本ユネスコ協会連盟が主催、日本ユネスコ国内委員会の後援をえて、『ユネスコ協会 ESD パスポート』（以下、「ESD パスポート」）プロジェクトは、全国のユネスコスクール（小学校～高校）を対象に、2015 年度は、全国で 31 地域、119 校（約 2 万人）で実施された。大阪では 2013 年から、エリーニ ユネスコ協会を主管として高校を対象に進められてきたが、2015 年度からは、大阪府ユネスコ連絡協議会（大阪、エリ - ニ、箕面、堺の 4 ユネスコ協会で構成）を主管として、大阪の 12 高校ユネスコスクール、3 中学校ユネスコスクールが参加、このプロジェクトが取り組まれてきた。

このプロジェクトを実施するユネスコスクールとは、国連が提起、UNESCO が主導する ESD（持続可能な開発のための教育）を実践、ESD を地域に普及させるための拠点校のことであり、「ESD パスポート」とは、ESD の実践での効果的な学びとして注目、期待されている手法の一つなのである。ESD では、児童生徒たちが世界や地域社会の課題に目を向け、これらを自らの問題として捉え、解決を考え、その解決のために行動する力を育むことが求められている。児童生徒たちは「ESD パスポート」でのボランティア活動を通して、地域で、人、社会、自然と向き合うことは、取りも直さず地域の課題と向き合うことになる。彼らはそうした中で課題を自らの問題として捉え、考える機会を手にしていく。さらに、ボランティア活動を通して他者のために役に立つことを実感し、喜びを感じることが自己を変革させていく大切な契機となっていく。こうした経験の積み重ねがやがて地域を変えていく力の育みになって行くに違いないと期待されているのである。

体験の経験化への学びの場としての「ESD パスポート」発表会

児童生徒の「ESD パスポート」でのボランティア活動は、ユネスコスクール各校の実践内容によってさまざまである。彼らはさまざまなボランティア活動を通して、人、社会、自然とさまざまな触れ合いの体験をしていく。ユネスコスクールのボランティア活動では、こうした体験を、ただ体験として終わらせない。体験を自己変革の契機とし、自己の生き方を高めていく。つまり、ボランティア活動体験を経験化（普遍化）することを大切にしている

ところに他のボランティア活動との大きな違いがある。ESD の学びでは体験を経験化する学びが重視されているが、こうした体験の経験化のためには、体験をまとめ他者に発表、伝えていく、他者の体験から学び、互いに学びあっていく、こうした学びのプロセスがとりわけ大切にされている。「ESD パスポート」で学びの発表会が重視されているのもそのためである。2015 年度の発表会は日本ユネスコ協会連盟と大阪府ユネスコ連絡協議会の主催、大阪府・市教育委員会後援（協賛、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、協力、株式会社クラウン・クイエティブ）のもとに、12 月 26 日、大阪市国際交流センターにおいて実施された。大阪国際交流センターでは、2014 年度から、近畿の高校生を中心とする国際理解、国際交流、国際協力等の日常の研究、活動の発表の場としてのユース・ワンワールドフェスティバル（2015 年の企画別のべ参加者 5,000 人）が開かれており、「ESD パスポート」発表会もその一環として実施されたところに 2015 年度の発表会の特色の一つがあった。

「ESD パスポート」でのボランティア活動は生徒の変容を育む

「ESD パスポート」発表会は参加 9 校（高校 7 校、中校 2 校）生徒・教員、関係者（ユネスコ協会、教育委員会・・・）100 余名の参加のもとに開かれた。参加各校から 1 名が発表、そのあとグループに分かれてそれぞれに体験の発表を中心に、学びあいのワークショップがもたれた。発表会には 2 つの特色を見ることができた。発表会は生徒の司会、リードのもとに全てが運営され、発表内容も生徒たちが自ら工夫したものであったこと。生徒の発表に共通していたのが、ボランティア活動によって何を考え、何を学んだのか。自分はどう変わったのか、こうした学びを通して今後何をしていきたいのか、が語られたことである

確かに各校ともユネスコスクールとしての実践内容はさまざまであり、それゆえボランティア活動、発表内容もさまざま。しかし全体に共通していたのは、他人のためにとの活動であったが、自分の考えや生き方を変えるきっかけになった、自分の活動が他人のためになっている、喜んでもらえたことで自分に自信が持てた、社会の問題への関心が深まり地域に愛着を持つようになってきたように思う、ではなかったかと思う。こうした生徒の発表、ワークショップでのコメントを聞いていると、こうした生徒の変容は果たして学校での学びでどこまで可能だったのだろうか、と考えこんでしまったのは私だけではなかっただろう。ある学校の発表で一人の生徒が「高校を卒業しても私たちのこうしたボランティア活動、ユネスコ活動経験を大切に、高校卒業後も続けていきたい、皆で、このつながりを大切にネットワークしていきましょう」と呼びかけたのが印象的であった。

3・11（東日本大震災）支援から学ぶ「ESD パスポート」の生徒たち

大阪の「ESD パスポート」活動の特色の一つは主として「ESD パスポート」への参加の中高ユネスコスクールの生徒を対象にした東日本大震災被災地への共同した支援活動の取り組みである。この取り組みは、2011 年の大震災直後から北摂つばさ高校（ユネスコスクール）を中心に、地域、NPO との連携、協力によって始められ今日に至っているものである。

2015年度は大阪の中高ユネスコスクール7校の生徒たち82名と教員、地域関係者を含む100名を超す共同支援グループが7月に2泊5日のスケジュールで東北被災地への支援活動に取り組んだ。今回の発表に被災地への支援活動体験が多かったのもそのためである。この支援体験がいかに生徒たちの生き方、在り方に大きなインパクトを与えたかがわかる。生徒たちの体験発表に共通していたのは、被災地支援がボランティア活動の目的だったが、かえって被災地の人たちから元気、勇気をいただき、自分の生き方を考える、変えていくうえで大きな契機になったというコメントであった。

以下、こうした大阪での「ESD パスポート」の被災地支援ボランティア活動の意義について整理しておきたい。3・11と呼ばれる東日本大震災から5年、風化が危惧される中で今迄継続されてきたこの支援活動は、その主役が若い世代であるだけにその意義は大きい。3・11が提起してくれる、いのち（生命）の尊厳、つながりの大切さ、未来への責任は、まさにESDが私たちに提起しているESDのキーワードそのものではないだろうか。生徒たちの3・11が提起する、この被災地支援でのボランティア活動での貴重な学びを今後どう生かしていくのか。大人の責任は重い。今、大阪で「ESD パスポート」による被災地支援という体験の共有化によって自然的にゆるやかなネットワークが形成されつつある。ネットワークを持続、発展させるには体験、理念の共有化が欠かせない。このことは、これからのユネスコスクールのネットワークを考えていくうえで示唆を与えてくれているように思う

大阪の「ESD パスポート」活動には共有したい多くの課題がある

大阪の「ESD パスポート」活動は今年で3年目。以下、卒直に、具体的に課題を提起してみたい。生徒たちの「ESD パスポート」活動での学びあいは、まず各校でしっかりと。そして発表会へ。発表会では十分な話し合いの時間をとりたい。「ESD パスポート」活動は学校のESD実践活動と結びついてこそ意義がある。どう結び付けたのか。課題は何だったのか。生徒に学びあいを期待し、求める前に教員相互の学びあい、研究の機会を持てみたい。このプロジェクトでの地域のユネスコ協会、会員の役割は何なのか。なぜユネスコ協会が、このプロジェクトを推進しているのか、についての理解を深めたい。会員相互だけでなく、教員方との学びあいの機会を持てみたい。「ESD パスポート」活動で学びを手にした高校ユネスコスクールの卒業生を地域のユネスコ協会が仲間として活動の場を用意できるのか。大阪府ユネスコ連絡協議会の活動に参加するための位置づけをどうしていくのか。以上、今後の各方面での議論に生かしていただければ幸いである。

最後になりましたが、主管の大阪府ユネスコ連絡協議会の「ESD パスポート」専門委員として、このプロジェクトの「体験発表会」の設定と進行、「報告書」の作成を取りまとめいただいた北摂つばさ高校の藤井伸二先生（首席）、および平素のESD実践とともに「体験発表会」「報告書」へとステップアップしてくれた生徒の皆さん、また生徒の皆さんを御指導いただいた各校ユネスコスクールコーディネータの先生方に心からの御礼を申し上げます。

2015 年度「ユネスコ協会 ESD パスポート」実施要項（抜粋）

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

日本ユネスコ協会連盟は、学習指導要領や教育振興基本計画に述べられた「持続可能な社会の構築に向けた教育の理念」の重要性に鑑み、学校教育が取り組んでいる「持続可能な開発のための教育（ESD）」との相乗効果を高めるために、ユネスコ協会が児童・生徒の ESD に関するボランティア体験活動を促進する「ユネスコ協会 ESD パスポート」事業を実施しています。

「ユネスコ協会 ESD パスポート」は、子どもたちが地域の課題を解決するためのボランティア活動に参加することを促進し、大人とともに課題を主体的に捉え、解決のために自ら考え、行動する機会を提供するものです。（以下、省略）

「ユネスコ協会 ESD パスポート」事業の内容 ユネスコ協会が ESD パスポートを発行し、ボランティアへの参加を促進します。ボランティアの機会、学校、ユネスコ協会、地域の市民団体などが提供します。ボランティアへの参加を通じて、子供たちに期待するのは、

「人や社会や自然との出会い」を通じて、「関わりやつながり」を大切にする姿勢

課題について自分自身で考え、解決のために行動する姿勢

世界や地域の課題を自らの問題としてとらえる姿勢

ボランティアをすると、パスポートに認定単位（ボラン）が証明（印かサイン）されます。ボランティア単位が基準（30 ボラン）に達すると、ユネスコ協会が「活動認定証」を発行します。ユネスコ協会は、年 1 回、ESD パスポート体験発表会を実施し、優秀者を顕彰します。

実施期間 2015 年 4 月～2016 年 3 月

1. 実施の流れ

1) 参加表明 参加を希望される学校は、ユネスコ協会に参加人数など必要事項をお知らせください。それを受けて、ユネスコ協会が人数分の「ESD パスポート」を発行します。

（参加の単位については、学年、クラス、クラブ、委員会など、各学校の事情に合わせて、取り組みやすい単位を柔軟にお決めください）

2) 「ESD パスポート」の活用 「ESD パスポート」を持った児童・生徒の皆さんは、ユネスコ協会、市民団体などが主催するボランティア活動に参加してください。ボランティア活動は、下記いずれでも構いません。・学校が指定したボランティア ・子どもが自主的に見つけてきたボランティア ・ユネスコ協会が主催するボランティア ・他団体が主催するボランティア(町内会など) ボランティア活動終了後、ボランティア活動の主催者に ESD パスポートの活動記録欄に印かサインをもらうよう、児童・生徒の皆さんに指導をお願いします。

3) 活動数の記録についてのルールは次の通りです。 活動時間の単位をボランとします。

ボランティア活動の 45 分から 2 時間を「1 ボラン」2 時間以上の場合は全て「2 ボラン」活動記録欄の 1 か 2 に をして、印またはサインをして下さい。

4) ESD ボランティア活動認定証 毎年、一定単位数(30 ボラン)のボランティア活動を行った児童・生徒の名前等を、1 月末日までにユネスコ協会にお知らせください。該当する児童・生徒さんにユネスコ協会が「ESD ボランティア活動認定証」を発行します。

5) ESD パスポート体験発表会 ユネスコ協会は、子供たちのボランティア体験を通して、持続可能な社会作りの担い手としての意識を深めるために、「ユネスコ協会 ESD パスポート体験発表会」の参加者を募集します。実施概要・具体的な募集内容については、ユネスコ協会からご連絡します。

2. ボランティア活動の定義 ESD パスポートが認定するボランティア活動は、「地域・社会の課題解決にむけて、無償で自ら進んで人との役に立とうという学校外での奉仕活動」が対象です。自然体験教室や野外観察会のような自分が楽しんだり学んだりする活動は除外します。関連して、国立教育政策研究所の「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)」に関する研究【最終報告書】にある、「持続可能な社会作りの構成概念」や「ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度」をご参照下さい。

3. 対象となるボランティア活動について

(1) 具体的な活動事例 「ESD パスポート」事業でボランティア活動実績として認める事例

国際協力に関わる活動 ・街頭募金(世界寺子屋運動、東日本大震災子ども支援募金等)
・書きそんじハガキ(回収と整理)

国際交流 ・留学生との交流の企画・サポート

平和に関する活動 ・平和の鐘をならそう(運営スタッフ)

環境保護にかかわる活動 ・リサイクル活動(空きビン、缶、古紙牛乳パック、トレー、エコキャップ、プルタブ等)・自然保全活動・清掃美化活動(町内のゴミ拾い、草取り等)

文化・芸術にかかわる活動 ・伝統文化や郷土芸能の継承・発展に参加(例:プロジェクト未来遺産での活動、ボランティアガイド)・社会教育施設等での文化祭等の企画・運営

・チャリティーコンサートなどの企画・運営

防災・減災に関わる活動 街頭募金(東日本大震災子ども支援募金)災害支援 復興活動

福祉にかかわる活動 その他 ・福祉施設等での日常生活の援助 ・独居老人宅訪問

学校外での行事の手伝い、高齢者の話し相手 ・点訳、手話、朗読

子どもの健全育成にかかわる活動 その他 ・野外活動やスポーツ等の指導

・年下の子どもたちの世話や遊び相手 ・地域防犯活動

(2) 対象とならないもの(省略)

(3) 導入方法(省略)

4. 活動数のカウント(省略) 5. 活動認定証(省略) 6. 体験発表会(省略)

7. パスポートの有効期間 「ユネスコ協会 ESD パスポート」の有効期間は 3 年間です。

記録したボラン数は次年度に持ち越して 30 ボランまでカウントできます。(以下、省略)

以上、事業内容確認のため抜粋・転載いたしました。(大阪府ユネスコ連絡協議会事務局)

大阪府立今宮高等学校

大阪府立今宮高等学校

教諭 桜本 哲也

本校は 2014 年末にユネスコスクールへの加盟申請が認められたばかりで、これまでユネスコスクールとしての活動実績はほとんどないが、総合学科ということもあり、多くの選択科目があったり、総合的な学習の時間を活用しての取り組みがあったりするので、ここではそれらを紹介することにする。

選択授業については、World Studies という授業で、フェアトレードの推進活動を行っている大学生を授業に招いて、フェアトレードとその普及活動についての学生たちの取り組みを紹介してもらっている。昨年度は、その授業を選択している生徒たちが、文化祭でフェアトレードとエシカルファッションをテーマにしたイベントを行ったり、2014 年 12 月に開催された One World Festival for Youth のプレゼンテーション部門とパネル展示部門に参加して、それぞれ高い評価を受けたりしている。また、秋に行われた本校のオープンスクールでは、自分たちが大学生から学んだ内容をもとに、中学生対象の体験授業で「チョコレートとファッションから見える世界」というテーマでプレゼンテーションを行った。「バリアフリースタイル論」という授業では、近隣の高齢者施設や障がい者施設を訪問して、施設に入所しておられる方々と交流したりしている。

総合的な学習の時間においては、主として「地域の現状と課題及び課題解決のための取り組みを学ぶ」ことを目的として、生徒たちが「あいりん総合センター」「A'ワーク」「ドーンセンター」「児童虐待防止協会」「大阪国際交流センター」等近隣の様々な施設を訪問して、貧困や労働、多文化共生、ジェンダー、児童虐待といった課題について、聞き取りを行った後、さらに各自でそれぞれの課題についてさらに深く調べ、まとめて発表するという取り組みを行っている。

ボランティア活動については、数年前までは、学校として積極的に推奨をして、長期休暇中には多くの生徒が保育所や地域のイベント等でのボランティア活動を体験したり、2 月に行われる One World Festival の当日ボランティアに参加をしたりしていた。また、自治会の執行部が、日本赤十字社の献血キャンペーンに協力をして、街頭で献血を呼び掛けるボランティアを行ったり、ユニセフ募金に取り組んだりもしていたが、最近は取り組めていないのが現状である。

この度、ユネスコスクールに加盟して ESD パスポートの活動に参加することになったのを機に、改めて ESD の取り組みと生徒たちのボランティア活動の支援をしっかりとて行くことが、今後の大きな課題である。

大阪府立今宮高等学校

3年 吉田 詩織

私は、昨年関西レインボーパレード／レインボーフェスタというイベントの実行委員として活動しました。このイベントは、一人一人のセクシャリティー（性のあり方）の多様性を祝い、アピールし、分かち合う場として2006年から毎年行われているものです。そもそも、このイベントに関わるようになったのは、学校の「課題研究」という授業でセクシャルマイノリティー（性的少数者）について調べてみようと思い、インターネットで検索しているときに、たまたま見つけたのがきっかけです。そこで、実行委員募集という案内を見て、軽い気持ちで参加してみることにしました。実行委員会では、イベント当日までの様々な事柄について話し合っていて決めていくのですが、私が担当したのは、当日ボランティアの募集と、舞台部門の出演者の決定でした。実行委員のメンバーは皆さんとても親切で、どうしていいかわからずに困っているときなどは丁寧に教えてくださったので、特に困ることはありませんでした。ただ、高校3年生で受験を控えていたので、受験勉強との両立は結構大変でした。実行委員会が終わってから塾に走って行くこともよくありました。私は今回の経験を通して、「世の中には、実際に自分が体験してみないとわからないことがたくさんあること」を学びました。多くの人々にセクシャルマイノリティーのことについてもっと知ってもらいたいと思うようになり、これからは、いろいろな機会を生かして、積極的にセクシャルマイノリティーのことについて伝えていかねばならないと思っています。

大阪府立今宮高等学校

2年 高山 将充

私は、生徒自治会の会長をしています。今年度は従来から行っている行事の企画・運営に加えて、厳しい環境で生活している世界の子どもたちに、自分たちに何かできないかを話し合いました。初めは、自分たちで古着を集めて、それらを現地に届けようと考えました。そこで、どの団体を通して、どこに届ければいいかを調べた結果、ユニセフ協会の事務所が大阪にあることを知り、自治会のメンバー4名で訪問しました。そこで聞いた話によると、古着は現地の文化によっては活用されないことや、送料が高くてついてしまい、あまり有効ではないことを知りました。また、ユニセフが現地で行っている活動を聞く中で、校内で募金をして、そのお金をユニセフに寄付したほうがいいのではないかと考えました。また、校内で募金することによって、多くの生徒たちにも世界の子どもたちへの関心を高めることができるのではないかと考えました。そして、一週間、毎朝校門に生徒自治会のメンバーで立ち、募金活動を行いました。私たちの活動はほんのささやかなものに過ぎませんが、来年度以降もこの活動を自治会に引き継ぎ、さらに広げていきたいと思っています。

追手門学院中高等学校

追手門学院中高等学校
教育推進部長 田橋 知直

追手門学院中高等学校は2014年にユネスコスクールへの加盟の承認を受け、今年度が実質的な活動スタートとなりました。学院理念「独立自強・社会有為」の観点から、「自己肯定感」、「関係性」を基軸に据え、「志の教育」を展開しています。承認を受ける際、米田伸次先生からESDパスポートの紹介を受け、参加させていただきました。

後述しますように、実際には思っていたような活動が十分にできないまま1年が過ぎてしまった感が否めませんが、12月26日に行われたESDパスポート体験発表会において、各校の実践を聞かせていただき、たくさんヒントとなるようなことがあり、本校でも始められそうな活動があり、刺激となりました。

また、生徒（今回は代表として中学生徒会生徒）を参加させたのが初めてでしたが、他校の実践から学ぶことが多く、有意義な時間を過ごせたようです。

以下、今年度の主な活動報告と総括をさせていただきます。

イスラエル文化交流会

2015年7月17日、茨木ライオンズクラブよりの委託を受け、イスラエルからの留学生・タマルさんをお迎えして、文化交流会を実施しました。始めにタマルさんからイスラエルの紹介をしていただき、その後、本校生徒から事前学習として調べた内容をもとに質問をしました。「平和」というテーマの質問をしたときに、タマルさんが答えの途中で少し詰まって複雑な表情をしていたことを生徒たちは敏感に捉えました。

日々、当たり前になっていること・経験していることが、世界規模で見ると全く違うということ、であるから、人と接するときに「知識」は絶対的に必要であること、そしてこういったことは「実際に触れてみることで始めて気づき、学べるものなのだ」ということがわかったようです。

交流会の後、昼食会を持ち、生徒からは日本のポップカルチャーの紹介を、タマルさんはベジタリアン用の昼食を持ってきたので、「食文化の違い」も学ぶことができました。



20150717 イスラエル交流会 討論



20151117 インドネシア交流会 発表

インドネシア文化交流会

2015 年 11 月 17 日、こちらは大阪観光局より委託を受けて、インドネシアのプライム・ワ
ン・スクールのスクールビジットを受け入れました。当校は、小学校から高校までの一貫校
で、当日は小学校 4 年生から高校 3 年生までの計 23 名の児童・生徒を受け入れました。オー
プニングセレモニーでは、インドネシア側から伝統舞踊の披露を、日本側からは中学 2 年生が
日本の名所・文化を、keynote を用いたプレゼンテーションで紹介しました。その後、中学 3
年生が主体となって校内を案内しました。最後に、各班で日本の学校とインドネシアの学校の
共通点や相違点をディスカッションし、ある班は模造紙に、ある班は iPad にまとめ、プレゼ
ンテーションを行いました。同じアジアに暮らす者同士、どちらの国も輝きを発し、協力して
世界を良くしていくことを約束して、お別れとなりました。

リサイクル運動

当初、「安易に」リサイクル活動を実施することを考えていましたが、いろいろ調べるうち
に集めたものの送付先や、送付されたあとの活用の透明性などの疑問や壁に直面し、スタート
が遅れてしまいました。現在はペットボトルキャップの回収に 11 月から着手し、その取り組
みを広げているところです。

今年度の課題と次年度展望

今年度の課題として、以下の 3 点が挙げられるかと思います。

活動内容

国際交流に偏ってしまい、「ボランティア」の側面よりも「交流」の側面の方が色濃く
出てしまい、生徒たちの中での成果として、「ボランティアができた」というよりも「違
う視点を学ぶことができた」という印象が強いように見受けられます。

参加人数

活動内容の性質もあり、限られた人数での実施となり、学校全体を挙げての取り組みに
できませんでした。

対外的活動

ユネスコスクールのネットワークを活用し、他校との共同プロジェクトを展開すること
ができなかった。

以上 3 点の課題を踏まえ、次年度の目標として

国際交流・スクールビジットの受け入れ回数の増

国際ボランティア行事（タイ）への参加者増

国内ボランティア活動の充実

高校課程への展開

を掲げ、さらに取り組みを充実させていきたいと思っています。

1. 本校における ESD 活動の位置づけ

本校は 2014 年の末にユネスコスクールに加盟したが、ユネスコ部などもなく、ユネスコに関連した授業や総合的な取り組みもほとんど行われていません。加盟後も教職員の意識としては「普通科」の学校として、「普通」に取り組んで行こうというものでした。つまり、従来の諸活動を ESD を意識して連結していくというのが本校での現在の取組と言えます。課外活動の大きな柱としては東北支援活動（本校では東北プロジェクトと呼んでいる）を継続して実施しこの活動にユネスコ活動を関連させていこうと考えています。そして、生徒手帳の一部を ESD パスポートとし、学校として取り組んでいるエコキャップ運動・街頭清掃活動・国際交流事業を連携することで、生徒たちに ESD の意識づけしていく予定です。また、関連した事業について、全校生徒へ募集をかけて参加をした生徒を支援するという、主体的な生徒を育てるというスタンスを継続し、これに ESD を意識させて行きたいと考えています。

2. 2015 年度の活動および今後について

本年度は、従来より行ってきた東北支援活動をベースに、スピーチコンテスト・作文コンクール等へエントリーした生徒の支援を行ってきました。また、韓国で行われたアジア・ユース・カンファレンスに派遣した生徒の研修を行い、これらの活動に参加した生徒による、全校集会での報告会を実施しました。ワンワールドフェスティバルの「ESD 活動報告会」を生徒主体で実施するための司会とファシリテーターを校内研修で育成し、本番を迎えることができました。こういった活動において最も重要なことは、「枠にはめない」ことを教員自身が意識し続けなければならないと考えています。そのため、諸活動に参加した生徒については、テーマや方針を伝え、生徒自身に解決の方法や発表の方法について考えさせ実践させるように心がけてきました。今後もこの方針で活動を継続していきたいと考えています。

私の将来の夢は、報道に関わる仕事に就くことです。歴史を学ぶなかで、正しい情報があれば、防ぐことができた犠牲があったと考えるようになったからです。第二次世界大戦で日本は情報統制を行い、国民を戦争に向かわせ、その結果多くの命が犠牲になりました。真実を「知る」ことは、目指すべき未来を正しく認識するために必要です。また、阪神淡路大震災、東日本大震災では、災害に対する知識不足が原因の 1 つとなり被害が拡大したと言われています。私は、自分で現地を視、声を聞きたい、という思いから学校で募集のあった東日本大震災の復興支援活動に参加しました。そのなかで、ESD 活動とは、社会の課題に対して身近なことからできる活動であると知り、意識して取り組みはじめました。

私は今年、東日本大震災の復興支援活動、青少年が主役の国際交流であるアジア青少年会議に参加し、現地での活動の報告を学校のホームページに掲載しました。それらの経験を通して、学んだこと、感じたこと、そして今後の取り組みを述べたいと思います。被災地復興支援プロジェクトの事前研修では、被災地取材した新聞記者の方にお話を伺いました。印象的だったのは「被災地の取材では、記者がわずかな物資を持って行っても、現状の解決には繋がらない。自分達は被災地の現状を報道することによって、多くの人を救うために現地に行く。」というお話でした。実際のボランティア活動では、自分にできることは小さな力にしかならないのだと痛感しました。しかし、現地の方の「ボランティアが来ると、忘れられていないと感じられる。バスを見るだけで、元気がでる」というお話を聞いて、被災地で経験したこと、感じたことを伝えることで、興味を持つ人が増え、活動が広がるのがやがて大きな力になるのだと思いました。4年経った今、震災は、報道されることも少なくなり記憶から薄れがちです。しかし現在も、建物がなく、盛り土と雑草が広がり、復興には長い時間がかかる場所がたくさんあります。町の中心から離れた所では人手不足が深刻です。現地に足を運ぶことで分かったことを多くの人に伝えたい、伝える力を身につけたいと改めて考えました。

韓国城南市で行われたアジア青少年会議には、アジアの5か国から約100名が集まり、未来に向けて「青少年が幸せなアジア」を全体のテーマに、人権、教育、青少年政策、遊びと文化の4つの分科会に分かれて話し合いました。様々な問題の根底にある格差を是正するための、最も土台となることは教育だと考え、私は教育分科会に参加しました。議論を経て、青少年が幸せなアジアを創るための教育を実現するために、私達がすべき3つのことを決めました。「教師に心を開くこと」、「異なる背景を持つ人と考えを共有・交換すること」、「大きな夢を持ち、それを達成するために計画的に努力すること」です。実際に、受けている教育制度だけでなく、文化・歴史観が異なる仲間と共通の課題について議論したことで、互いに相違点を理解した上で話し合うことの大切さを実感しました。そして、最も嬉しかったことは、多くの外国の友人をもつことができたことです。現在、日本とアジアの国々の間には様々な問題がありますが、友人達との交流を通して、私が最近の報道を受けてその国の人に対して抱いていた、反日的、利己的であるという印象は変わりました。多くの人が日本や日本語に興味を持っていて、周囲の人に対する配慮も細やかでした。私は、自身が周囲の情報に影響され、先入観を持っていたことを反省し、私達は幸せなアジアを創っていく同志なのだ、と考えるようになりました。国籍に関係なくお互いに認め合い、思いやることの大切さ、素晴らしさを学びました。

青少年が幸せなアジアを創るために、私自身が周囲の人に経験したことを伝え、今回の会議で決めた、すべきことを実践し、手本を示すことが、持続可能なアジア、そして世界を実現することに繋がると考えます。日本と世界の課題に目を向け、解決のために取り組むべきことを人々に伝えること、それが、持続可能な社会を目指して、1人ひとり役割を果たしていくための一助になります。様々な経験をして自分の見識を広げ、学んだこと、考えたことを周囲の人に伝えること、そして自ら実践することが、今私にできることであり、すべきことです。今後は、学校の集会やユネスコスクールの交流会で活動報告を行います。ESD活動での人との出会いは、私に多くの気づきをもたらしました。私には残り2年間の高校生活が残されています。積極的に国際交流、ボランティア活動、意見発表などの活動に取り組み、広く人との繋がりを築き、多くの人に気づきを与えることができる人を目指します。

コリア国際学園中部・高等部

コリア国際学園中部部

3年 黄 有優

私が通っているコリア国際学園は、いつでもボランティアという言葉大切にしています。コリア国際学園建設当時は心無い人に朝鮮のスパイなどと書かれたり、一時は建設反対運動なども行われていました。ですが今では授業で地域の人と交流したり、文化祭や学校のイベントでも地域の人々が来るような学校になっています。このような関係を築くうえで重要な役割を果たしたのがボランティアです。では、今からどのようなボランティア活動をしているかを説明したいと思います。まず、一番熱心に取り組んでいるのは、二週間に一回の地域清掃です。学生会がリードしてボランティア委員会、ユネスコ委員会、環境委員会、そして希望者が朝集まり、地域のゴミ拾いをしています。一回の活動でゴミ袋三個程度のゴミを分担して拾っています。その時にいつも感じるがあります。それは、「いつかゴミ拾いをしなくてもきれいな街になればなあ」という願いです。これを達成するために日々努力をしています。また、ゴミ拾いの際に地域の人と出会ったら必ず挨拶をします。今では、コリア国際学園の制服を着た生徒が歩いていると「いつもゴミ拾いご苦労様」などと声をかけてもらえるほどになりました。このようにしてコリア国際学園は地域の人との関係を築いてきました。

活動はこれだけではありません。年に1回、学校全体で三つのチームに分かれて、地域清掃、スワンベーカーリー、保育園に行きボランティア活動をしています。スワンベーカーリーと言うのは、障害を持つ方が運営しているパン屋のことで、そこで実際にパン作りを体験し、障害を持つ方とお話をしています。保育園では、小さい子供たちと触れ合います。さらに、最近では中部部3年から高等部2年までの生徒が近くにある山田第五小学校に行き交流をしました。中3はトンデムンノリという韓国の歌遊びをしました。高1は韓国の伝統的な遊びであるユンノリ、高2はコリア語を楽しく小学生に教える活動をしました。この交流を通して、普段韓国の文化に触れることの無い小学生が少しでも韓国に興味を持ってくれたと思います。このようにコリア国際学園では、ボランティア活動や、交流などを通して地域の人や様々な人々と交流しています。まだまだコリア国際学園の規模は小さいですが、一人一人が力を合わせれば今よりもっと世の中に貢献できると思います。



20151030 地域清掃



20151127 山田第五小学校

2011年3月11日、私が小学6年生の時、教室で卒業アルバムを作っていると船にいるような揺れが起こった。その時は、また小さい地震かな？と軽い気持ちだった。しかし家に帰ってテレビをつけると同時に私は言葉を失った。テレビのどのチャンネルも東北ですごく大きな地震が起きたと報じていた。私はその時まだ小学生だったので東北の人達の力になりたいと思っていても行動に移せなかった。だから、いつか必ず東北の現地に行って何か少しでも力になりたいと思っていた。

そして高校生になり、学校で東日本大震災復興のボランティアを募集しており私はすぐに「絶対に行く！」と思った。現地に行く前の私はどれくらい復興しているのかという疑問と東北の人達にどうやって元気を与えようかという不安でいっぱいだった。東北に行くまでの15時間のバスはとてもしんどくてまだボランティアもしていないのにすごく疲れた。しかし東北に着きバスから外の風景を見るとそこにはまだ復興しきれていない東北の姿があった。震災から約5年の月日が流れたが、そこにはまだ家もなく人もあまりなかった。私達は驚きのあまり声を発することができなかった。現地に着き最初にいかだの復興作業をした。その日はとても暑くて体力もすぐに無くなりそうだったが、現地の人達は毎日この作業をしているんだと思うと頑張れた。その日の夜は、あるお宅に泊まった。バーベキューをしてくれてその日の疲れが一気に吹き飛んだ。そこのお宅のおばあちゃんが、震災時に娘の旦那さんがご両親を失ったと話してくれた。旦那さんは明るくて私たちに面白い話を話してくれ、とてもノリも良い人だった。だから、私は余計に胸が苦しかった。2日目は木を植えた。私達が植えた木は震災当時木に捕まって助かったものと同じ種類の木だった。1つの木で8人の命が助かったそうだ。ここに沢山の木を植える事によって何か起こった場合、この木でもっと沢山の人が助かるようにと願いながら木を植えた。夜は体育館のような所で実際震災が起きた時の避難訓練のような事をした。床が固くて布団も無いところで少しひんやりして腰も痛かった。私は普段温かくて暖房もあってふかふかの布団で寝られていることがどれほど幸せなのかを感じた。最終日は、陸前高田を視察した。そこで崩壊した学校やビルなどを目の当たりにして心を痛めた。震災前と震災後を比べた写真なども見てその余りの変わりようが怖かった。その後、気仙沼高校で交流し、生徒の方々はとても明るく、とても楽しい時間を過ごせた。震災時の話を聞いて胸が苦しくなったけど、その話を聞くことができて良かった。気仙沼高校の方々との別れはとても寂しかったが、一緒に笑って過ごせて良かった。

私はこのボランティアに参加してしんどいこともあったし話を聞いて苦しかったけど、多くの大切な話を聞けて自分が知らなかった震災の事を知れて良かったし、何よりも勇気や元気をあげるために行ったが、逆に東北の温かい人達に勇気や元気をもらえた。そして、毎日の当たり前のような生活に感謝した。いつ何が起こるかわからないからこれからはもっと備えなければいけないと思った。私はこれからも色んな人達の力になり、その人達の笑顔を見られるように頑張りたい。このような貴重な経験の機会をくださった人達に本当に感謝でいっぱいだ。

大阪府立佐野高等学校

佐野高校の ESD

大阪府立佐野高等学校

教諭 安里 佳世子

本校は普通科と国際教養科を併置し、一貫して国際理解教育を一つの教育の柱として推進してきたが、ユネスコスクール(ASP net 校)に加盟することにより、ESD をより積極的に推進していくこととなった。特に国際教養科においては、1・2 年次の必修科目「国際理解」において、週 1 時間ではあるが、環境・開発・貧困・紛争など地球規模で起こっている現代の諸問題を取り上げ、知識・理解を深めるとともに、それらの問題と自分とのつながりの中で、その解決に向けて自ら考え行動しようとする態度を育成することを目標にしている。知識の蓄積にとどまらず、態度や行動の変化を伴ってこそその ESD であるが、教室の授業だけでその変化へとつなげることは難しい。その意味においても、自らが動き、汗を流すボランティア活動は本校の ESD において非常に重要かつ不可欠なものであると考えている。ボランティア活動は生徒の心を動かすきっかけとなる。ESD パスポートがその励みとなり、生徒たちがより積極的にボランティア活動に参加することを期待している。

定期的なボランティア活動としては、まず自分たちの身近なことから行動を始めようと、ユネスコ部で月 1 回の地域の海岸清掃に参加している。地元の若者が中心となって、自分たちの力で泉佐野を活性化させたいという思いから始まった活動である。この清掃活動に参加することによって、生徒たちは学校を出て、地域の方々と触れ合い、地域社会とのつながりを意識するようになったと感じている。今年度は、東北(石巻市)への復興ボランティア活動にも 9 名が参加した。以下、参加生徒の感想文を掲載する。

東北ボランティア活動で学んだこと

大阪府立佐野高等学校

3 年 沈 裔 愷

私たちは 9 月 21 日～23 日の三日間、東北ボランティアに参加しました。活動場所は東日本大震災の時、最も被害が大きかったと言われている宮城県石巻市でした。この三日間は私にとって、非常に濃い三日間となりました。これまで、新聞や報道などで知ることはありましたが、実際に被災地に行って、その現状を自分の目で確かめることができました。

私たちは、石巻市の門脇小学校の中にも入ることができました。この小学校は、あの 3 月 11 日のままの状態でいまだに残されていました。時間が止まっているようでした。教室の黒板には当時の波の高さの跡が残っています。泥で汚れたランドセルや教科書などもたくさん放置されていました。それらを見て、子どもたちがそこで楽しく授業を受けていた姿が思い浮かび、本当に心が痛みました。

この経験から、私は「今あるもの」、「今すること」の大切さを理解するようになりました。私たちは、一分後のこと、五分後のこと、ましてや一年後のことなど、未来に何が起こるのかを予想することは全くできません。しかし、今現在を大切することは、私たち誰もが今すぐにできることです。私たちは、「今」を大切にしてお行動すべきです。つまり、「未来」のことをしっかりと考えながら、今しなければならないことを行動に移すのです。小さなことでも、そうすることによって、身の回りから、だんだんいい未来に向けて進めるような気がします。東北ボランティアは私にそのようなことを教えてくれました。

さらに、実際に被災地を見た経験から伝えたいことは、震災からもうすぐ五年が経つのに、復興はまだまだ進んでいないのが現状であるということです。震災に関する報道も少なくなってきました。しかし、私たちはこのことを忘れず、自分たちにできる支援を続けていかなければならないと強く思いました。

ボランティア活動に参加して

大阪府立佐野高等学校
1年 安田 愛美

私たち佐野高校のユネスコ部は月に1度、私たちの地元である泉佐野市のマールビーチで海岸清掃を行っています。清掃の一番の目的は地域活性化です。清掃活動は夏に地域の人たちが復活させた泉佐野りんくう花火大会につながっています。地道な活動ですが、これからもこのような地域の活動を続けていくことが大切だと思います。

また、私たちは9月のシルバーウィークに東北ボランティアに行きました。震災発生から約4年半経っていましたが、まだまだ支援が行き届いていない所もありました。ニュースや新聞で見るより、自分の目で見ることによって、そのことをとても身近に感じる事ができました。貴重な体験をすることができたと思います。

これからもボランティア活動を続けていき、またそこから感じたことや学んだことをたくさんの人に伝えていくことも大切だと思っています。



20151004 泉佐野市マールビーチの清掃



20150920 石巻市門脇小学校

大阪府立泉北高等学校

アートマイルプロジェクト

大阪府立泉北高等学校

2年 加藤 早苗

私は、今回 ESS 部を通してアートマイルプロジェクトに参加しました。アートマイルプロジェクトとは二つの国がひとつのキャンバスにテーマに沿った絵を描くというプロジェクトです。私たちのバディとなる国はタイでした。

タイの Suksasongkro Chaing Mai 学校の皆さんとインターネットで交流しました。タイの Suksasongkro Chiang Mai 学校の皆さんが YouTube に学校生活の動画をアップしてくださったのでタイがどんな国なのか知ることができました。私は交流するまでタイのことを何も知らなかったので実際にタイの高校生が何に興味があるのか、タイの郷土料理が何なのかを知れてとてもよかったし楽しかったです。私たちも私たちの自己紹介や、動画を送りました。お互いの国について質問しあったりもしました。そして、絵のテーマを決めました。テーマは旅行、文化、伝統でした。そこで、旅行というテーマから飛行機を連想し、飛行機を絵のベースとしました。それから、日本の文化である和食や伝統である着物、ほかにも日本の象徴である東京タワーやスカイツリーなども取り入れ、とてもいい出来になりました。

ひとつの大きいキャンバスを二つの国でシェアして完成させるので、達成感をすごく感じました。普段の高校生活ではこのような体験をすることはないので、私の人生の中で忘れられない貴重な体験となりました。

私が感じたこのアートマイルプロジェクトの一番の魅力は、一緒に作業している仲間たちと深い関係になるだけでなくタイの方々とも関わることができたことです。日本にいながらにして国際交流ができる、これは最大の魅力ではないでしょうか。私たち、日本側の作業は完成し、今、タイ側の完成を待っています。完成された作品を見るのが待ち遠しいです。



20151217 作成中



20151222 日本側完成

ネパール震災支援募金活動

大阪府立泉北高等学校

2年 宮末 治弥

2015年4月25日に起きたネパール地震をみなさんは覚えていますか？私は、今まで日本の地震に関しては大変だな、自分の住んでいる地域で起きてしまったらどうしようなどと気になってはいました。ですが、外国の地震に関してはニュースで報道されているのを見ても、怖いな、くらいにしか感じていませんでした。

しかし、今回のネパール地震が起こったとき、私が所属しているESS部で震災のために募金活動をしようと活動が始まりました。そして活動を始めた後に泉北高校にネパール人の先生がいることを知りました。先生の家族は大丈夫なのかな、もし自分も同じようなことになったらどうしようなどと、今まで以上に怖く感じました。そして、もっと真剣に募金活動をしてより多くのお金を集めて少しでも多くの困っているネパールにいる方々の助けになることができればいいなと思いながら活動しました。そして、みんなの頑張りのおかげで約65,000円も集まりました。主に学校内の食堂の前や泉ヶ丘駅で一般の方にも募金の声掛けをしました。集まったお金はUnicefとJagriti Academyという機関に募金しました。しばらくしてから、ネパールのJagriti Academyから感謝の楯が届いて本当に驚きました。そのとき達成感とともにすごくうれしい気持ちになりました。

それから、大阪教育大学の渋谷吉孝さんが学校に来てネパールに行って感じたことや、今のネパールについて詳しく教えてくれました。ネパールは震災後落ち着いてきたとはいっても、いまだに大変な地域は多く残っているそうでもっともっと支援は必要だということでした。そのお話を聞いて、自分たちは短期間の募金活動で達成感を感じたり、満足していたけれど、それだけではダメだなと思いました。

これからも、震災だけに限らず募金活動などで困っている方々の助けになることができるのなら、みんなで協力し助け合えばいいなと改めて思いました。私は、今回の活動を通してこれからは今までよりもっとニュースなどで報道される出来事に注意を向けていきたいなと思い直しました。



20150617 泉ヶ丘駅前にて



20151104 Jagriti Academy 報告会

大阪市立鶴見橋中学校

大阪市立鶴見橋中学校

教諭 川島 彰允

鶴見橋中学校は2013年9月にユネスコスクールに加盟し、今年度が実質的な活動スタートとなりました。「いのち・つながり」を大切にする人権教育を土台として、東日本大震災発生後に防災教育を加えた「人権防災教育」を進める中で、ボランティアをユネスコスクール活動の柱にしたいと思い、昨年度の「One World Festival」に参加しました。そこで行われていたESDパスポート体験発表会での発表やグループワークでの活発な生徒の姿に感銘を受けました。その時のご縁でESDパスポートの導入、がんばろう！つばさネットワークとしての被災地支援ツアーへの参加が実現し、生徒の感想にある「出会い」「つながり」の大切さを私自身が改めて学ばせてもらいました。

本校の活動は「GLOBALとLOCAL」をテーマに地域から海外まで広がる取組をしています。グローバルな活動では、昨年4月に起きたネパール大地震発生後にネパール人留学生との交流会を開き、文化や人を知った上で街頭募金活動を行い、現地の小学校の復興に役立ててもらいました。地域の活動では西成警察署と連携して、ひったくり防止カバーの配布や公園の落書き消しなどの「よい街づくりボランティア」を毎月行っています。その他にも市民交流センターでの、お年寄りのための「ふれあい喫茶」、子どものための「子ども食堂」のお手伝い、識字の読み書き教室に通う方のための学習サポートなどを行っています。

ユネスコスクールの活動に参加する生徒は、活発で派手な生徒ばかりではありません。日頃の成果を発揮できる大会がある運動部の生徒などに比べて、地味にコツコツとボランティアを重ねる生徒に活動報告の場やESDパスポート「活動認定証」表彰の機会を与えることができるという点で、取組の大きな意義があると感じています。一方で、大きな舞台での発表や表彰も嬉しいですが、生徒達にとって一番嬉しいことは、多くの方から「頑張ってるね！えらいね！ありがとう！」とあたたかな言葉をもらえることです。その「ふれあい」の中で認めてもらった、褒めてもらったという経験が一人一人の自尊感情の高まりにつながり、さらなる挑戦の原動力となっていることが生徒の感想から分かりました。「学校を変えるのは生徒」というスローガンのもと、今後も生徒主体の活動の持続発展を「チーム鶴見橋」の教職員が一丸でサポートできるよう一生懸命取り組んでいきます。



20150619 ネパール支援募金活動



20151226「ボランティア認定証」受賞式

大阪市立鶴見橋中学校 1年 松岡 希乃

私はボランティア活動を通して、笑顔、あいさつ、コミュニケーションの大切さを学びました。なぜかという自転車のひったくり防止カバーの配布をしたとき、つけた人が笑顔で「ありがとう」と言ってくれてとても嬉しかったし、やってよかったなと思いました。他にも老人ホームで喫茶店のボランティアにいて、おばあちゃんやおじいちゃんが話しかけてくれて思い出話などを聞いたことがとても楽しかったです。これからも笑顔、あいさつ、コミュニケーションを大切に活動していきたいと思います。

1年 東出 蘭

私が参加したボランティアは、あまり大きな活動ではないけど、誰かの役に立てているならすごく嬉しいと思いました。これからも活動을續けて、積極的に行動したいと思います。

2年 多田 麻視

自分たちが知らない所、気づいていない所でもボランティアが行われていることを知りました。そのボランティアを通して、私達にもできることがあり、それは誰かに広めていき、色々な人に知ってもらえる活動だと気づくことができました。

2年 高橋 颯良

僕は、こども食堂や老人ホームのボランティアに参加して、人との関わり方や接し方について改めて学ぶことができました。

3年 薦井 雪月花

「がんばろう！つばさネットワーク」の東北支援ツアーに参加するまでは、ボランティアは「してあげる」ものだと思っていました。現地での作業は資材運び、植樹や草刈りだったけど、黙々と作業をしていたのではなく、そこには必ずボランティアを受け入れてくれる現地の方がいました。「この作業を君達がしてくれたら、こんな風に助かるんだよ」と教えてくれて、自分の小さな活動が現地の人役に立てていることが分かり嬉しく思いました。そして、作業に疲れた私達にたくさんの親切をくれる方々を見ると、自然に「させてもらっている」んだなぁという認識を持つことができました。

鶴見橋中学校のテーマ「いのち」って何だろう？そんなことを考えながら活動する中で、今ある「時間を大切に、真剣に生きよう」という思うことができました。自分だけでなく、まわりの人のために「いのち」「時間」を使うボランティア活動。その中で得た、「出会い」「つながり」は私達に一步步つ前に進む力や未来への希望をくれています。

帝塚山学院泉ヶ丘高等学校

ユネスコ部・インターアクトクラブ・ボランティア部による各種活動

帝塚山学院泉ヶ丘高等学校

教諭 岡 憲司

本校で ESD パスポートを意識してボランティア活動に取り組んでいるのは、上記 3 クラブの部員である（ただし、ユネスコ部とインターアクトクラブは部員・顧問が重なっている）。

ユネスコスクールとしての強い意識をもって動いているのは、主としてユネスコ部であり、「がんばろう!つばさ、ネットワーク」の気仙沼ボランティア、青少年赤十字活動(JRC)、本校留学生との交流、老人ホームでのボランティア、OB・OG による経験報告会などを実施している。の活動は、大阪府下の十数校が青少年赤十字連絡協議会(連協)を構成して話し合い、赤十字創設者アンリ・デュナン、国際人道法、救急救命法、献血、リーダーシップなどについて学び、献血呼びかけ、バザー、被災地のための募金活動、大阪城清掃活動などをおこなっている。本校からは 5 年続けて連協の役員が出ている。の活動は、ユネスコ部が 20 年ほど前に始めたもので、2015 年 12 月には在日韓国人のお年寄りが多く入居しておられる老人ホーム「故郷の家」で、移動や健康体操をお手伝いしたり、話し相手になったりしている。

インターアクトクラブ(IAC)は、ロータリークラブの支援のもとに国際交流やボランティアの活動をしている。南大阪・和歌山地域の 12 の中学・高校に IAC があり、一緒に動く機会も多い。新入生歓迎会、年次大会、国際交流親睦会、リーダーシップフォーラム、海外研修などの合同行事も多く、他校生やロータリアンと交流することが多い。これらの活動を通して、少年兵・アイスブレイク・ファシリテーターなどについて学ぶことができた。2015 年の文化祭では、ポリオ撲滅のための募金活動もおこなった。

ボランティア部は、「あしなが学生募金」活動、ペットボトルキャップや不要な CD・DVD のリサイクル活動に取り組んでいる。他にも、学校近くの保育園でのお手伝い、不要になった体育館シューズを「バレーボールバンク」を通して世界の子どもたちに贈る、学校周辺の清掃などもおこなっている。



20151121 留学生との交流会



20151214 老人ホームでのお手伝い

以前の私は、ボランティアといえば「敷居が高い」「自己満足」「偽善的」という負のイメージがありました。しかし、ユネスコスクールへの入学を契機にボランティア活動に積極的に参加してみることで、視野を広げることができました。2月に開かれる「ワンワールドフェスティバル」にむけてのコアボランティアが一番印象的です。大人と共に活動することは、初めての経験で、意見が言えなかったり、甘えてしまうこともありました。しかし今では、チームの一員として貢献できていると感じています。また、多種多様な考え方を知るなど、自分自身も成長させてもらえました。

2年 西田 光里

私は、高校1年生から青少年赤十字やインターアクトクラブなど様々な活動に参加しています。初めは緊張して、周りの人についていくのに精一杯でした。しかし、活動に参加していくごとに「自分が今、出来ることは何なのか」「自分の意見も言ってみよう」と考えることが多くなりました。このように考え始めてから、今まで以上に活動が楽しくなってきました。ここで出会った友人は、それぞれ自分の意志があり、それを発信することが出来る人が多く、とても刺激になりました。この刺激の影響で、発言力や行動力、周りの状況をみて行動する力などの面で、以前の私よりも成長したように感じます。

2年 奥中 佑佳

12月に老人ホーム「故郷の家」で、クリスマス会のお手伝いをしました。初めての場所だったので少し不安でした。しかし、私が思っていた老人ホームとは全く違い、みなさん生き生きとしていて、私も自然と笑顔になりました。車椅子を押してクリスマス会会場までの移動を手伝いました。お年寄りと健康体操もしました。そして色々とお話しできたことも印象的でした。はじめはコミュニケーションが取りづらかったのですが、介護福祉士さんたちの助けもあり、徐々に上手くいくようになりました。私たちと同年齢の頃の戦時中の経験を伺い、苦労されたのだなぁと思いました。「頑張ってたね」という言葉に励まされた気がしました。

この経験により、老人ホームのイメージが変わりました。そして、もっともっとお年寄りの方と色々なことをしたい！と思いました。

1年 兼田 萌愛

7月に気仙沼ボランティアに参加しました。当時小学5年生だった私は、大震災の映像に衝撃を受けましたが、被災者の大変な生活については、なかなか想像できませんでした。

気仙沼ボランティアで私が一番印象に残ったことは、気仙沼高校の皆さんとの交流です。

今でも生徒の約7割が、仮設住宅から学校に通っていると聞き驚きました。「津波を防ぐために高い防波堤が、海を見えづらくし、海を見に来る人も減って寂しい」という声も聞きました。住民の命を守る防波堤が、気仙沼住民を海から遠ざけるという問題も知りました。

現地の人々の「声」を知ることが大切なのだと強く感じました。このボランティアで経験したことを、これからも伝えていきたいと思います。

羽衣学園高等学校

「生徒たちが主体的に 行動・体験・発信・意識納得 サイクル」プロジェクト

羽衣学園高等学校

教諭 米田 謙三

本校ではESD パスポートを毎年7月に配布している。配布する生徒は原則ボランティア部の部員に配布している。(部員数80名)実際に、本校の生徒は下記のような活動に参加していて活動に応じてESD パスポートを活用している。

1. 盲導犬の育成を応援

日本ライトハウスを訪問。施設見学。研修会参加。

学園祭展示。盲導犬グッズ販売協力。盲導犬のデモンストレーションサポート。

2. 病気遺児・災害遺児・障がい者のための取り組み

あしなが学生募金活動 参加 (難波駅前)

青少年赤十字活動 参加 (献血スクール、リーダー合宿、街頭献血呼びかけなど)

3. 地域社会との交流

毎月1回高石社会福祉協議会介護福祉事業

給食配達(独居老人などの自宅まで直接夕食を届け対話をする活動)

アースデイ 環境問題イベント 浜寺公園 ボランティアスタッフ参加

高石市社会福祉協議会主催 ボランティアフェスタ 参加

4. 国際交流活動 (過去3年分のみ)

外務省、ユネスコ協会事業 カナダ高校生との相互訪問交流 生徒23名教員2名

ユネスコESD世界大会(岡山) 大阪ユネスコスクールネットワーク 参加

マレーシア高校 本校訪問 交流 受け入れ

文部科学省 国際交流事業行事参加(識字率を高めよう!!)

日本ユネスコ協会連盟 学校プロジェクト参加 世界寺子屋運動他

世界の学校の無い地域に学校をという呼びかけ!カンボジアの生活品展示・募金

台湾高雄 高雄市高級工業高校 相互訪問 交流 一部ホームステイ受け入れ

大阪府国際交流プログラム イギリス派遣、アメリカ派遣、ベトナム派遣

ユネスコスクール 北京人民大学附属高校と英語プレゼン大会参加

アートマイル 絵を通じた国際交流プロジェクト

インドネシア・タイ・マレーシア交流企画 ビデオ会議実施

5. 文化的な視野を広める

上賀茂神社 葵プロジェクト参加 園芸部と共催 葵を本校でも育てる活動

賢くスマートに ネット社会やスマートフォンと付き合う取り組み

中学校やPTAへの高校生自身の出前授業実施

内閣府・文部科学省・総務省・経済産業省へ直接提言

学校として エコキャップ運動にも取り組んでいる。(P.32、特集3に関連記事)

『みんなを笑顔にするための一つの方法』 私は、羽衣学園高校のボランティア部で様々なボランティア活動に参加させていただいてたくさんの学びを得ることができ、また私自身成長することができました。例えば、アースデイという地域のイベントでのボランティアスタッフの経験を紹介します。行きたいブースの場所が分からない人や落とし物をした人などの困っている人にいち早く気付き、行動する努力をしました。その日まで、私はあまり積極的に行動することができませんでしたが、アースデイでボランティアをさせていただき積極性の大切さや周りに目を向け考える必要性を学びました。また、羽衣学園に来校された他国の人に学校案内や難波などに観光案内をした時には英語でしかコミュニケーションをとれませんでした。相手は何を言いたいのか何を思っていてどうしたいのか、言葉以上におもてなしの心や思いやりを持って行動をする事の重要性を学びました。昨年の岡山での ESD 世界大会やいろいろと海外へ行かせていただいたときに、このようなボランティア活動の経験は、困っている人がいたら今自分に何ができるか考え声をかけてみる事の勇気や、どうしたらもっと人の役に立てるのかといったことを常に考える思いやりにかわりました。私にとってボランティア活動とは、『みんなを笑顔にするための一つの方法』だと考えます。困っている誰かにそれに気づいた誰かが声をかけてできることをしてあげた時、助けた方も助けられた方も笑顔になります。そうやって人と人がコミュニケーションをとることで地域だけでなく世界中が笑顔いっぱいになるといいなと思います。地域でのボランティア活動のほか、被災地復興のボランティアで実際に被災地に行って現地の方々にお話を伺ったという他校のお話を聴いたり、教育を受けたいけど学校がないという状況や十分な治療を受けられないという人々がいることを学んだことはありますが自分自身が実際にその場所に行って自分自身の目で見て考えて行動するということにはまだ到達していません。知るという事をしたうえで実際に行動に移して目で見て感じることやそれを感じて自分に何ができるのかをその場所で考えることがすごく大切なことだと思うので、これからはそういった活動にも参加したいです。そして、世界中が笑顔で包まれるような温かい環境をみんなで作ってみんなが思いやりと笑顔にあふれた環境をつくりたいです。その第一歩として、これからもたくさんのボランティア活動に参加してもっと色々なことを知って考えて行動したいです。私は高校卒業後、海外の大学に進学します。新しい場所でも活動を続けます。



20150911 中国からの訪問団来校



20151007 ヴェトナムからの訪問団来校

大阪府立北摂つばさ高等学校

本校における ESD パスポートの展開と課題

大阪府立北摂つばさ高等学校
ユネスコスクールコーディネータ
教諭 末岡 聖也

本校では2013年より ESD パスポートを導入し、ボランティア活動の活性化を図ってきた。導入から現在まで、様々な課題に対処してシステムを構築してきた展開を以下に記したい。

初年度は全校生徒に ESD パスポートを配布し、生徒が管理をしていた。生徒が常に ESD パスポートを生徒手帳のように携帯するのが理想の姿だと考えていたからである。しかし、生徒が手帳の管理をしきれずに、いざ必要となる時には手元にないという問題が起こった。そこで ESD パスポートの表紙に生徒番号シールを貼付し教員が管理を行った。クラス HR で ESD パスポートを配布し、生徒が各自のボランティアを記録する作業時間を設けるようにした。しかし、ここで2つの課題が浮上した。1つ目は生徒がいつ、どのようなボランティアをしたのか忘れること、2つ目はどの活動がボランに値するか生徒にはその時点では分からないこと、である。この課題をふまえ、2年目より生徒手帳に ESD パスポートを挿入した。このことで「ESD パスポート」は全校生徒が常に携帯する状況となり、「ESD パスポート」や「ボラン」が生徒にとって、より身近なツールに変わったと考えられる。さらに、生徒自身の記録の不備を補うべく、教員側でボランの認定される、各学年、部活動、授業の中での活動を集約することとした。ユネスココーディネータを各学年に配置し、全教員の協力を得て効率的なボランの集約システムを構築した。その集計結果を年間数回、生徒個票として配布することで、どの活動でボランが認定されたか、何ボランを獲得しているのか、生徒各自が容易に確認できるようにした。しかし、課題として生徒が30ボランに達成していても認定証の申請作業を忘れる、ということが起こってきた。ボランティアとその過程における学びが目的なので、生徒は認定証の申請に執着していないのである。しかし、教員側の思いとして、ボランティア認定証の受賞が生徒のモチベーションにつながると考え、申請を促進する方策として、30ボランに達成した生徒を呼んで、申請方法を具体的に確認することとしている。

このように本校では ESD パスポートの展開において、常に課題が起こってきた。それらに対処する中で構築してきたシステムにより、今後もボランティアとその学びを促進したい。



20151225 認定ボラン総数



20151225 ボランティア認定証受賞者数

大阪府立北摂つばさ高等学校

3年 梅垣 由梨亜

初めて募金をした時、なかなかピラを受け取ってくれなくて心が折れました。でも何回もやっていくうちに、心も折れなくなっし、ずっと笑顔で大きな声でできるようになりました。気仙沼ボランティアを通じていろんな体験をして、いろんな人と交流できて良かったです。

大阪府立北摂つばさ高等学校

2年 黒田 竜之介

私は、ボランティアというものを少し軽く考えていました。でも、1年半で変わりました。ボランティアは小さなことでも誰か人の為になることに気がきました。自分のためになることに気がきました。学校生活が終わっても続けようと思いました。

大阪府立北摂つばさ高等学校

2年 阪本 結香

復興は進んでいると思っていましたが、陸前高田に行くとは復興には時間がかかると思いました。募金活動の時は、ピラを読み募金に協力してくれる人がたくさんいて嬉しかったです。反対に無視された時は悲しい気持ちになりました。ボランティアはすごくやり甲斐があります。人の役に立てるのは嬉しいので、これからもがんばりたいと思います。

大阪府立北摂つばさ高等学校

2年 藤岡 理乃

私は気仙沼に行ったり、駅前で募金をしました。募金では無視されることもありましたが、その時は傷つくけど、優しい人が声をかけてくれるので、がんばろうと思いました。気仙沼では、テレビでしか見たことがなかった場所に行って、津波の後、何も残っていないのでびっくりしました。大変さはあっても、いろんな人の話を聞いて、国を超えて助け合うことを学びました。

大阪府立北摂つばさ高等学校

2年 福山 茄乃

私は高校に入るまでボランティアをしようと思ったこともなかったけど、友達とユネスコ部に入って募金活動やたくさんの経験をさせてもらいました。初めは面倒臭いと思っていたけど、「頑張ってるね」とか「偉いね」と、たくさん声をかけてもらい、楽しくなっていました。声をかけてもらおうと嬉しくなるので、これからも自分にできることをやりたいと思います。

大阪府立松原高等学校

大阪府立松原高等学校

教諭 佐藤 智美

本校は 2006 年にユネスコスクールに加盟して以来、国際交流部や生徒自治会の生徒が中心となり、全校生徒とともに ESD の取り組みを行なっています。総合学科の特色を生かし、グローバルな視点を育む人権教育を軸に、生徒ひとり一人が自ら選択、体験、参加することを尊重し、地域社会につながるチカラを育むことをめざしています。

学校全体の取り組みとして、障がいのある生徒とともに生きる「仲間の会」、HIV 啓発グループ「るるく」、「ピアカウンセラー」、「部落問題研究部」、「朝鮮文化研究部」、「JCBC」、「スタディツアー」、「ピースワーク」など、生徒の自主活動を充実させ、近隣の幼稚園、小中学校への出前授業などを実施しています。また、国際交流部や生徒自治会の取り組みとして、「エコキャップ運動」、「服のチカラプロジェクト」、「東日本大震災救援募金活動」、「ネパール地震救援募金活動」、「気仙沼現地ボランティア参加」などを行なっています。

今回の ESD パスポート体験発表会の報告では、主にスタディツアー、エコキャップ運動、ピースワークショップの活動報告をさせていただきました。

スタディツアーは、1999 年のフィリピンから始まり、今年で 17 年目をむかえます。現地の人々との交流や、ホームステイ、ボランティア、フィールドワークなどの活動を通して、異文化を知り、自分を知るツアーです。これまでに、フィリピン、ネパール、ベトナム、韓国、タイ、中国、スリランカ、カンボジアなどの国々を訪れました。

エコキャップ運動は、ペットボトルのキャップを集め、ワクチンに換える運動です。地域の小学校とも連携して行なっています。

ピースワークショップは、本校の 3 年生が昨年訪れた東北での活動を報告しました。西田敏行主演で映画になった『遺体 明日への十日間』のモデルになった千葉淳さんを訪ね、お話を伺いました。

「松原高校の学びは実践にある！」これは 2013 年に行なわれた、ユネスコスクール日韓中 3 カ国高校生フォーラムの発表で、本校の卒業生が言った言葉です。様々な体験を通し、培った経験が、社会に出た時人生の糧となり一生の財産にしてもらいたいと願っています。



20150318 ネパールスタディツアー



20150511 東日本救援募金活動

大阪府立松原高等学校

3年 木村 奈々子

私は2度、ネパールスタディツアーに参加しました。初めてネパールに行った時は、「人の温かさ」に気づくことができました。2度目のネパールでは、ホームステイをした村も、お世話になった家族も去年と同じで、懐かしい村の人々やホストファミリーの温かさも変わることがありませんでした。ただ、村にある小学校の校長先生にお話を伺った時、校長先生は通訳さんに対して何か怒っている様子でした。後で通訳さんに話を聞いてみると、校長先生は「できない約束ならしないでほしい」と怒っていたそうです。今回のスタディツアーでは、日本から中古のパソコンを小学校に寄付するという話があったのですが、関税などの関係でなくなってしまい、校長先生は怒っていたようでした。そのとき私は、校長先生は日本からの支援に依存してしまっているのではないかという事に気づきました。帰国後の事後学習では、どうすればネパールの人々が支援活動に依存しないようになるかについて考えました。最終的に私が行き着いた答えは「お金やモノや人を送るだけの支援を続けるのではなく、技術や知識を伝えていく支援活動が必要だ」ということです。2度ネパールに行ったことで、改めてネパールの事を知り、支援活動のあり方について考える機会になりました。

大阪府立松原高等学校

3年 藤田 くみ

私は一昨年の夏に行った、ピースワークの話をしました。私が参加したピースワークでは、東北へ出向き『遺体 明日への十日間』という映画のモデルになった、千葉淳さんに出会うことができました。今回の報告会では、千葉さんが震災当時、どんな思いで、運ばれてくるご遺体や、残されたご家族と向き合っておられたかを、伝えることができました。

他校の活動報告を聞いて、私の学校だけではなく、さまざまな学校が東北のボランティア活動や海外研修などの国際交流を盛んに行なっていることを知り、その輪が広がっていけば良いなと思いました。

大阪府立松原高等学校

3年 増田 朱那

私は、生徒自治会で活動をしており、自治会でしている「東日本大震災救援募金活動」と、「エコキャップ活動」の報告をしました。

今回の発表会で、他校の活動報告を聞いて、どの学校も震災のボランティアや、いろんな国と国際交流をしているのを知りました。この報告会で聞いたことを後輩にも伝え、松原高校の活動も、新しいことを取り入れたり、もっと盛んになってくれたらいいなと思いました。ユネスコスクール同士の関わりや、出会いも大切にしていきたいと思いました。

東日本大震災復興支援 中高生 現地ボランティア

がんばろう！つばさネットワーク

事務局長 藤井 伸二

台風 11 号が近畿地方を直撃した後の 2015 年 7 月 17～21 日、大阪府下のユネスコスクール 7 校（鶴見橋中学校、春日丘高校、コリア国際学園高等部、住吉高校、帝塚山学院泉ヶ丘高校、北摂つばさ高校、松原高校）の中高校生 82 名を含む松野雅一代表以下 101 名は、東日本大震災の被災地である気仙沼にて、第 6 回目となる現地ボランティアを敢行した。

この現地ボランティアは、私が大阪市立大学大学院（M1）在学中に発生した東日本大震災に際して、大学院の 4 期先輩で気仙沼出身である坂口一美さん（日本ユネスコ協会連盟理事、箕面ユネスコ協会理事長）の「肉親と故郷を救援・支援したい」という思いに寄り添い行動を起こすべきだ、という院生や教授の呼びかけから始まった。2011 年 4 月 9 日の夜、私は誘われて「共生社会東日本地震被災者救援・支援の会」の会議に出席した。この会は創造都市研究科都市共生社会研究分野の柏木宏教授により、東日本大震災の公式名称も確定していない 3 月 17 日に結成されていた。この会議で私の「高校生を連れて行けるのか」の問いに坂口さんが「私がコーディネートします」と答えていただいたのを受けて、松野雅一代表とともに 4 月 22 日、がんばろう！つばさネットワークを結成し、今日まで繋がる支援活動が始まった。もっとも坂口さんは「私はそんなこと言っていない」とおっしゃるのだが……。以下、経過。

2011 年 5 月 気仙沼でつばさの高校生 29 名が公園のヘド口除去等。

2011 年 8 月 近隣自治会と協力して、気仙沼高校から 11 名を大阪に招待。

2011 年 12 月 つばさ、柴島の高校生 16 名、大島でカキ養殖イカダ復旧作業。

2012 年 5 月 つばさ、山田、松原、柴島の高校生 27 名が大島でイカダ復旧作業。

2012 年 8 月 近隣自治会と協力、気仙沼、志津川高校から 40 名を大阪に招待。

2013 年 7 月 つばさ、春日丘、松原の高校生 33 名が大島でカキ養殖加工場整備。

2014 年 3 月 近隣自治会と協力、気仙沼高硬式野球部 31 名を大阪に招待。

2014 年 7 月 つばさ、春日丘、コリア国際、松原、41 名が大島でカキ養殖支援。

2015 年 3 月 近隣自治会と協力、気仙沼高硬式野球部 22 名を大阪に招待。

2015 年 7 月 大阪の中高校生 7 校 82 名(先述)が大島でカキ養殖支援。階上で植林支援

2016 年 3 月 近隣自治会と協力、気仙沼高・登米高野球部 31 名を大阪に招待。(準備中)

2016 年 7 月 気仙沼現地ボランティア 15～19 日と 20～24 日の 2 回 100 名。(準備中)

2015 年 12 月 31 日現在の総計は以下の通り。

過去 6 回の気仙沼ボランティアの高校生参加者はのべ 228 名。

過去 4 回で大阪に招待した被災地の高校生はのべ 104 名。

過去 52 回の阪急茨木市駅前募金に 2,191 名の高校生が参加。

過去 7 回で被災地にお渡しした義援金の合計は 1,244,808 円。

さて、土砂降りの 7 月 17 日 20:00 に出発し、翌日 11:00 に気仙沼エースポートに到着後

すぐ、フェリーでカモメと戯れつつ大島に渡った。50 分の山越え、昼食の後、ヤマヨ水産代表の小松武さんから被災当時の聞き取り。その後、カキ加工場の資材運搬作業と並行してクルージングによるカキ養殖イカダの見学となった。再び山を越えて 17:00 に浦の浜でフェリーを待っている時には、参加者の顔は既に心地よい疲れと達成感に溢れていた。

2 日目は階上（はしかみ）地区にて「海辺に森を作ろう会」の活動を支援し、海岸での植林活動を行った。校舎 4 階まで津波に襲われた向洋高校の校舎が残る同地区では、海岸の木に掴まって助かった方が何人もおられたことから植林が取り組まれている。地福寺で住職からの聞き取り、昼食の後、岩井崎で命をつないだ木や慰霊碑、震災遺構を視察した。

今回の現地ボランティアは前回の 2 倍の参加者となり、宿泊については 50 名ずつ 2 班で八瀬（やつせ）民泊 1 泊、早稲谷鹿踊伝承館での避難所体験 1 泊の交代制とした。伝承館は震災直後に宿泊させていただいた経緯から、今回も許可していただいた。生徒は「雑魚寝体験ははじめて」「少しだけ避難所での苦労を体験できた」と感想を漏らしている。

3 日目の午前は陸前高田の視察、語り部の方からの聞き取りを実施した。「夢の架け橋」と名付けられた 3 km のベルトコンベアが運ぶ山土で 10m 超の嵩上げが進行中で、今後、訪問の度に景観がどんどん変化していくことが予想される。市役所、駅舎、体育館、高田高校などが撤去され、道の駅高田松原など、限られた震災遺構しか残っていないもとで、聞き取りによって当時の様子を想像することの重要性がますます高まっていくだろう。

海の市というモールで昼食の後、気仙沼高校で交流した。佐藤忠司先生の多角的データに基づく復興への課題提起を受け、グループ討論となった。「気仙沼に必要な復興事業は？」「東南海地震にどう備えるか？」等のテーマで大阪と気仙沼の高校生 130 名が討論した。3 月に大阪で行われる野球部との再会、交流を約束して、気仙沼での全日程を終了した。

5 年間の活動を踏まえ今後の課題を挙げたい。ご意見ご批判を頂ければ幸いである。

(1) 被災地復興にはまだまだ時間がかかる。しかし、第 18 共徳丸が撤去される等、今や目に見える遺構は限られる。津波体験者からの聞き取り活動を更に重視する必要がある。

(2) 東南海地震が想定され、大阪はいつ被災地になっても不思議ではない。我々が現地に行く意義を、救援・支援から「復興に学び、防災・減災に生かす」交流に変化させる必要がある。

(3) 活動の協力関係はユネスコスクールを中心に学校、地域自治会、行政、各種団体、ユネスコ協会に広がっている。日本ユネスコ国内委員会の「提言」(2014 年 3 月 31 日) が示す ESD 推進の実践例といえないか、を世に問うべく更なる情報発信を進めたい。



20150719 気仙沼 階上地区にて



20150720 気仙沼高校にて

「第1回アジア・ユース・カンファレンス」に参加して

コリア国際学園 中部部・高等部
校長 嚴 散俊（オム チャンジュン）

2015年10月26日から31日まで、韓国城南市青少年財団主催の「第1回アジア・ユース・カンファレンス」に参加しました。城南市(ソナムシ)は、ソウルのすぐ南にあり、ソウルの過剰人口を受け入れる町として開発された人口98万の新興都市です。古くはユネスコ世界遺産の南漢山城が地域にあり、新しくは韓国のシリコンバレーと言われる板橋(パンギョ)テクノバレーがあり、著名なIT企業の本社ビルが立ち並ぶ街でもあります。

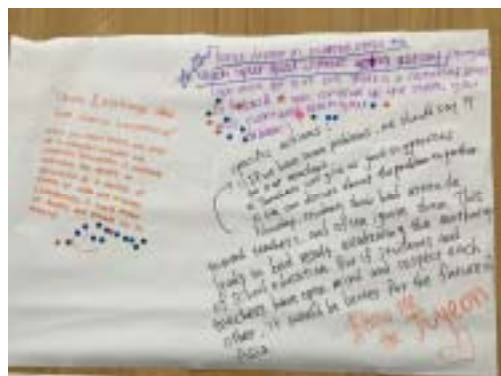
同カンファレンスは、「青少年が幸せなアジア」をテーマに、韓国、日本、中国、ヴェトナム、マレーシア、この5か国からの高校生と大学生、約100名が参加して、人権、教育、青少年政策、遊び文化の4部会に分かれ、英語で討論し、提言をまとめました。城南市の自治体外交の一環として行われ、今後も持続的に開催し、将来的には参加国で開催地を変えながら実施することを目指しているそうです。

日本チームは、コリア国際学園が同財団の依頼を受け、窓口となり、大学、高校30校へ協力をお願いし、書類審査の上、大阪のユネスコスクール3校(北摂つばさ高校、春日丘高校、コリア国際学園)から高校生5名、また近畿大学、大阪女学院大学、同志社女子大学、駒澤大学から大学生5名の計10名を選抜して構成しました。

日本チームは、10月3日、顔合わせを兼ねて、学習会を持ちました。学習会には参加学生だけではなく、参加校の教員と一部保護者も集まっていただきました。学習会では、コリア国際学園の教員からカンファレンスへの理解を高めるため、「韓国における青少年の人権・教育・遊び文化の状況に関する示唆」という題でお話を聞き、質疑応答をする機会を持ちました。アジア各国から集まるので、他国の状況との比較という視点を持たなければ、日本の事情を話してもなかなか理解してもらえないと思うので、韓国の状況に限るという面はありましたが、日韓の比較の一つの軸は持てたのではないかと思います。



20151027 #1 Asian Youth Conference



20151027 #1 Asian Youth Conference

出発直前の10月24日には2回目の学習会を持ち、参加者10人の発表要旨を聞き、互いにコメントをしました。日本語でも簡単ではないはずなのに、英語で発表しなければならないというハンディを背負っての発表練習でした。きちんと伝えることができるだろうか、ちゃんと理解してくれるだろうか。期待半分、不安半分だったのではないのでしょうか。

そして、いよいよ出発。東京から大阪からそれぞれ出発して韓国の仁川空港で集合。青少年財団の関係者とともに、城南市に向かう。途中、アジアで一番目か二番目に長いという斜張橋を渡ったりして1時間ほどでホテルに到着しました。ちなみに、かなりモダンな綺麗なホテルで、料理もとてもおいしかったです。

「第1回アジア・ユース・カンファレンス」では、各部会や全体会で各国の事情について話合って、その違いを十分に分かり合った上で、そしてアジアの未来について共通認識を深めることができました。また多彩な交流プログラムを通じて、相互の友情を深めることができました。参加者たちは21世紀を生きる若者らしく振る舞いも進取的で、国際マナーをわきまえていたと思います。

特に感動したのは、城南市の高校生たちが示してくれたホスピタリティーです。かなり英語のできる生徒が多く選抜されていて、彼・彼女たちにはホストとして、英語が足りないとわかったら、そっと寄り添って応援するというとても自然なしぐさや明るさ、周りに配慮しながら堂々と自説を展開する進取性がありました。大会の成功要因は、朝から晩まで生徒一人ひとりに付き添った財団職員の献身性とともに、この素晴らしい高校生たちにあったと思います。

最後に、日本からの参加者の感想です。

「アジアのことがよくわかった。もっと勉強したい。いい経験になった」「いろいろなことを学び、知ることができた。かけがえのない思い出」「日本チームのみんなもわいわいできて楽しかった」「皆さんの支えのお蔭で本当に貴重な経験ができた」「こんなに楽しくて濃い5日間を過ごせてとても幸せでした。みんないい人ばかりで、たくさんの友達ができました。この出会いを大切にしたい」「この経験は私の宝物です。英語がんばります」

大会は2016年も開かれます。ぜひたくさんの応募がありますように。



20151027 #1 Asian Youth Conference



20151027 #1 Asian Youth Conference

ボランティアと ICT で創り出す Glocal な Network

羽衣学園高等学校

教諭 米田 謙三

ユネスコスクールを拠点に、高校生が「持続可能な開発のための教育（ESD）」をテーマに活動しているが、一番の成果は、お互いにフェイストゥ フェイスのコミュニケーションを通して知の交換（学びあい）を実施していることである。また、単なる「交換」ととどまることなく、それぞれの意見を、生活環境、ライフスタイル、文化を切り口として、人と人、人と自然、人と社会との関係のあり方について考えていく源としている。次年度以降はさらに、地域との連携、外部のサポート、校内のサポート体制、国内、国外の協力体制（ネットワーク）を広げようと考えている。

以上の狙いから、本校では、生徒が参加するボランティア活動は、活動に応じて下記という多様なパターンのすべてで取り組まれている。

学校が生徒にボランティア活動を提示して、学校活動として参加

学校がボランティア活動を提示するが、参加判断は生徒の自主性に一任

ボランティア活動を提示しない（生徒自身が自分たちで参加する活動を探し参加する）

また、ESD で扱いうる内容は、人権・環境・貧困など多岐にわたる。現代の社会を、持続可能な社会へと転換することを目指して、ESD の理解を進めるために、もっといろいろな体験・学びのある授業や課外活動を取り入れたい。

その際に ICT を活用して小中高大・産業界・地域（国内外）との連携を図り、持続可能な社会に求められる能力・知識・意欲・態度・価値を育てるために協働学習を今後、さらに組み入れる予定である。現段階で活動認定証(30 ボラン達成)は、取り組んでいる生徒の半分程度が達成すると予想している。（今年は高校3年生が10名達成）



（特集記事は、大阪府ユネスコ連絡協議会事務局の依頼により執筆いただきました。）

平成 27(2015)年 10 月 16 日

「ユネスコ協会 ESD パスポート」体験発表会 開催要項

大阪府ユネスコ連絡協議会

会長 中馬弘毅

日頃よりユネスコ活動にご理解とご協力をたまわり、ありがとうございます。

当会は大阪のユネスコ活動を更に活発にすべく、大阪ユネスコ協会、エリーニ・ユネスコ協会、箕面ユネスコ協会の連絡協議会として今年 6 月に発足しました。本年度より当協議会が大阪府内の「ESD パスポート事業」の推進主管をつとめさせていただくことになりました。つきましては、日本ユネスコ協会連盟が平成 25(2013)年から取り組んでいる ESD パスポート体験発表会について、下記のように開催させていただきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

記

日時 平成 27 年 12 月 26 日(土)午前 10 時 30 分～12 時 30 分 準備：9 時 00 分～10 時 00 分

場所 大阪国際交流センター 3 階 銀杏の間 (中会議室)

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町 8-2-6 TEL06-6772-5931

この企画は、One World Festival for Youth の一部として同会場で開催いたします。

対象 「ユネスコ協会 ESD パスポート」実施校の生徒・教員、

およびボランティアに関心のある中学生・高校生

内容 各校からの実践体験発表

中高生交流会(グループ討論)

全体会(認定証の授与・まとめ)

主催 (公社) 日本ユネスコ協会連盟

大阪府ユネスコ連絡協議会

協賛 あいおいニッセイ同和損害

保険株式会社

協力 株式会社

クラウン・クリエイティブ

後援 大阪府教育委員会

大阪市教育委員会

(特活) 関西国際交流団体協議会

問合せ先 大阪府ユネスコ連絡協議会

担当 中橋正文 090-1132-0215

「ユネスコ協会 ESD パスポート」とは

(公社) 日本ユネスコ協会連盟(日ユ協連)が全国のユネスコスクールと連携して 2013 年度より実施する小中高生の地域ボランティア促進事業。小中高生はボランティア活動を日ユ協連発行の ESD パスポートに記録する。活動が一定時間数に達すると、各地域のユネスコ協会を通して日ユ協連に申請、日ユ協連が発行する「ボランティア活動認定証」が授与されるシステム。

2015 年度 ESD パスポート実施校

大阪市立鶴見橋中学校、大阪府立今宮高校

追手門学院中学校高校、大阪府立春日丘高校、

コリア国際学園中等部・高等部、大阪府立佐野高校、

大阪府立泉北高校、帝塚山学院泉ヶ丘高校、

大阪府立西淀川高校、大阪府立能勢高校、羽衣学園高校

大阪府立北摂つばさ高校、大阪府立松原高校

【資料】**当日参加者** (9 校生徒 71+教員 17)+見学者(生徒 19+社会人 13)=計(90+30)= **120 人**

ユネスコ協会 ESD パスポート体験発表会 運営報告

大阪府立春日丘高等学校

教諭 大岡 成樹

1. ESD 体験発表会に向けて

本校では、ユネスコクラブが存在せず中心となっている生徒は東日本大震災の被災地ボランティアに参加した生徒 8 名（2 年生 1 名・1 年生 7 名）が、ユネスコ関係の発表などに取り組んでいる。今年度は ESD 体験発表の司会とグループワークの担当となったが、今年度は 1 年生しかおらず、運営のスタッフは初めてだったため、生徒たちと一緒に準備を行うこととした。

10 月に行われた教員の会議で決定していたことは、会場準備・発表時間・グループ討論・全体会という大きな枠組みと、発表時間各校の取組みを 5 分以内（スライド 8 枚、A3 資料 1 枚）で発表するというだけで、発表校（人数）や発表順は確定していなかった。終わりの時間は厳守のため、当日の発表に合わせてグループワークの時間を調整する必要があった。

資料 1. タイムテーブル（予定と当日の実際の時間） 【 】内は運営の準備物

予定	9:00～9:50	10:00～10:30	10:40～11:40	11:40～12:10	12:10～12:30
実際	9:00～9:55	10:00～10:45	10:45～11:50	11:50～12:15	12:15～12:40
内容等	集合 進行確認・会場設営 受付開始 【名簿・進行表】	全体開会式 ホールにて 受付	生徒発表会 ・9校 【PC・スピーカー】	グループ討論(15班) 「ボランティアで自分が どう変わったか・考えたか」 【模造紙1枚】 【ふせん大・マジック】	全体会 ・発表 ・認定証授与 ・記念撮影 片付け

生徒配布用の進行表に討論のテーマとワーク手順及びメモ欄をつけておきました。

2. 校内での生徒向け講習会

予定では 30 分間しかないグループ討論でテーマが「ボランティアで自分がどう変わったか・考えたか」であったため、司会が流れを理解し適宜指示を出すことができなければ運営が難しいことが予想された。そこで、12 月の期末考査最終日に、生徒たちに司会とファシリテーションの講習会を実施し、そこで今回のテーマで実際にワークを行った。本校の生徒は全員 1 年生でワークショップの経験も皆無だったため、3 時間ほどの時間をとって、アイスブレイクを含めたグループワークの方法から発表までを経験させた。自己紹介のやり方や、付箋を使ったグループワークを行い、発表グループが出ない場合は前半の班に 1 人ずつ埋め込んだファシリテーターが発表することとした。しかし、ワンフェスに参加しているほとんどの高校ではこういった活動に慣れているため、当日の動きにはあまり不安はなく、実際にファシリテーターがいない班も動いていた。講習会を経て、司会の生徒と 30 分間のワークについて、相談し、流れを確認した。大枠の流れとして、下のような時間設定を行った。

資料 2. 司会が作成したタイムテーブル（残り 5 分を切ったら 1 分ごとに時間を案内）

予定時間	内容
0～05分	3枚のふせんに自分がどう変わったか、発表をきいて考えたことを書く。
5～15分	自己紹介・ボランティアの経験を述べて、ふせんの内容をみんなに紹介する。
15～25分	グルーピングしながら、模造紙に発表準備をしていく。
25～30分	発表

3. 当日の運営上の課題点

あえて教員打ち合わせを1回のみとし、また今回、生徒を中心に運営したにも拘らず、参加している各学校の生徒たちは総じて上手くやっていた。当日になって決めることも多いため、司会が適度に柔軟に対応できる必要があるが、これも生徒にとっては良い経験になると思う。

- ・ 設営：グループ分けしたが、座席にグループを示す表示があった方がよい。
- ・ 受付：会場設営後に受付を開始したが、発表資料が間に合っていない学校があった。
会場設営時に受付準備を完了させる方がよい。
- ・ 来賓：3名（会長・日本ユネスコ協会連盟事務局・大阪市教育委員会）に絞って紹介し、「本日はたくさんの来賓の方に来ていただいています」と簡略化して開始した。
- ・ 発表：(1)体験発表会の順番は生徒たちで決めたが、発表直前になってから発表資料(USB)を持ってくる学校があった。教員の打合せや当日9時からの準備に来ていない学校はスライド枚数、発表時間とも大きく超過していた。
(2)制限時間のチャイムについて
今回は、制限時間のチャイムを鳴らさなかったが、超過する学校があるなら、来年は鳴らした方が良くかも（教員打ち合わせの出席も徹底する）。
- ・ 討論：(1)模造紙と水性マジックは、本部（全体会）で準備してもらったが、模造紙の枚数が不足（4グループ分）していた。
(2)時間が実質25分しかなかったため、司会は予定時間のアナウンスをタイムテーブルより早めに、度々すること。（想定内で、校内研修会で練習をしていた）
- ・ 全体会：認定証授与時に横断幕を背景にするか、受賞者氏名をスクリーンに明示するか。
（受賞者氏名のPPTを作成したが、スクリーンが横断幕に被るので、ボツにした。）



20151226 ユネスコ協会 ESD パスポート体験発表会（大阪国際交流センター）

【資料】「ユネスコ協会 ESD パスポート」体験発表会 実施要項

平成 27(2015)年 10 月 16 日 参加校打ち合わせ 中橋正文

日頃よりユネスコ活動にご理解とご協力をたまわり、ありがとうございます。

日本ユネスコ協会連盟が平成 25(2013)年から取り組んでいる ESD パスポート体験発表会について、事務局会議にむけて、以下のように原案を作成しました。各校担当教員の皆様にブラッシュアップいただき、会議にて役割分担させていただければ幸いです。

「ユネスコ協会 ESD パスポート」事業趣旨

ESD の推進、特に若い世代の参画の活発化を図るべく、学校(U スクール)と地域(ユ協会)の連携の結節点となるように企図され、2013 年度より全国で展開されています。

実施校はユ協と連携して、「ESD パスポート」配布、社会貢献活動を促進、一定数に達したら協会を通じて日ユ協「ボランティア認定証」が授与される。年度ごとに「体験発表会」「報告書」で学校間交流、学校・地域間交流を促進する。下線部 4 点セットで展開する事業となっている。従って「体験発表会」「報告書」も学校(U スクール)と地域(ユ協会)の連携で実施・作成する。

全体の進行 ()は分担

	3F 銀杏	必要備品	担当
9:00 ~ 9:50	セッティング 進行の確認	PC(春日丘)、PRJ、SCR、MC、AMP(4 点据え付け) セット図面(つばさ)、横断幕「ユネスコ協会 ESD パスポート体験発表会」(つばさ)	会場 set (つばさ)
10:40 ~ 11:40	開会 各校生徒報告 60 分を発表校で割る	原則：時間・容量厳守、(案) 発表時間確定(60 分を発表校で割る) 配布資料は A3 版 1 枚迄、スライドは表紙・裏表紙除いて 8 枚まで、4 分 30 秒でベル鳴、(ベルは の学校が持ち込み) 発表校 鶴見橋中 今宮高 追手門中高 春日丘高 コリア国際中高 佐野高 泉北高 帝塚山泉ヶ丘高 西淀川高 能勢高 羽衣高 北摂つばさ高 松原高	全体司会、台本(春日丘) G 司会、台本(春日丘) 全体司会、台本(春日丘)
11:40 ~ 12:10	グループ討論 (30 分)	進行マニュアル：自己紹介と討論 テーマ(案)：「ボランティアで自分がどう変わったか」 備品：名札、受付名簿、タッセル、模造紙、ペン、(春日丘)	会場片付
12:10 ~ 12:30	全体会 片付を含む	進行マニュアル：(春日丘)(各 G 討論、認定証、まとめ) 認定証受賞校(各校代表受賞、写真撮影)	

分担の経過 2016 年度からは、チラシの全校配付の封筒詰め作業を入れて、3 校で分担する。

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
	コリア	関団協つばさ	つばさ	追手門	帝塚山泉ヶ丘		
	コリアつばさ	松原	春日丘	鶴見橋	追手門		
	-	関団協	大阪府連	OWF 運委			



テント地横断幕(制作済) 横 450cm 縦 90cm

**2015 年度 大阪における「ユネスコ協会 ESD パスポート」の取り組み
～ 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟・
大阪府ユネスコ連絡協議会・ユネスコスクールの連携事例～**

発行日：2016 年 2 月 21 日

**本書の一部または全部を許可無く複写・複製・点訳載することはできません。
本書についてご意見・ご質問がありましたら、下記までお願いいたします。**

発行：中馬弘毅（大阪府ユネスコ連絡協議会 会長）
編集：藤井伸二（大阪府ユネスコ連絡協議会 ESD パスポート専門委員会委員）
デザイン協力：特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会
事務局：中橋正文（大阪府ユネスコ連絡協議会 事務局長）
住所：540-0006 大阪府中央区法円坂 1-1-35 大阪府教育会館 4 階
Tel：06-6809-7746
Fax：06-6809-7747
E-mail：mark.nakahashi@gmail.com
印刷：特定非営利活動法人 セルフ社
